AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

公立大学法人秋田公立美術大学
理事長兼学長　霜鳥 秋則 氏

北海道夕張市生まれ。北海道大学法学部法律学科卒業後文部省入省。外務省在アメリカ合衆国日本国大使館一等書記官などを経て文化庁文化部長就任。更に国立の学校の副学長や校長などを経て2015年から公立大学法人秋田公立美術大学理事長兼学長を務め、特に同大学の大学院設置に向け尽力した。長岡技術科学大学名誉教授、小山工業高等専門学校名誉教授。新国立劇場運営財団常務理事、日本民謡協会理事長、全国書美術振興会評議委員等も歴任。

高齢者が住みやすい秋田、という強みを活かせたら!?

秋田の起業家を増やすための取り組みとして、主に秋田の経営者への取材をして参りましたが、今回は少し趣向を変えて秋田公立美術大学学長の霜鳥秋則さんにお話を伺いました。霜鳥学長は官僚として、国内外様々な場所での勤務を経験し、現在秋田で大学運営を行っています。少しだけ違った角度から秋田のビジネス環境を考察してみいたいと思います。インタビューの後半では、アートとビジネスの関係についての対談の様子もお伝えします。

工藤　霜鳥学長の経歴と経験について少しお聞かせください。

霜鳥　北海道夕張市出身で、北海道大学卒業後は当時の文部省に入りました。中央で働いた後、地方出向で島根県で勤務しました。その後はアメリカでの研修の後、大使館勤務を経験するなどし、最終的に文化庁の文化部長を務めました。退官後は独立行政法人や新国立劇場で勤務しました。また、大学関係では、帝京平成大学の教授、長岡技術科学大学の学校管理運営にも携わっています。それまでの経験で得た文化的知識や学校管理運営のスキルを生かせるということで、6年前から現在の秋田公立美術大学の学長を務めています。一応文化関係の仕事をしていましたが、直接的に美術に関わった経験は少く、どちらかと言えば、バレエやオペラなどの舞台芸術に触れる機会が多かったと思います。

工藤　本当に色々な土地で様々な仕事をしてこられたのですね。そんな霜鳥学長の目線から秋田の商売やビジネスに対する印象などをお聞かせください。

霜鳥　強みである慎重さや真面目さという長所を生かしながら、さらにこれからはもっと全国に打って出る！みたいな力強い気概や勢いのようなものが生まれたらいいですね。ある美大の卒業生が県民の性格について、秋田新幹線に例えて話していました。「スタートするときは後ろ向きに走り、途中で前を向いて走り出す。他県に出ると急にスピードを上げて走る。」という例えでした。当たっていませんか。

多くの企業も農作物も県民が必要な分だけ作って、他県に売るような分量はあまり作っていないというように見えます。これは物足りなさを感じる部分と、秋田らしさを感じる部分があって、どちらが良いとは言い切れない。ただ、秋田県内で生み出したものを県内で消費していても、全国チェーンや他県の企業の商品を購入し、出て行ってしまうお金があることも考えると、もう少し外貨を稼げる企業があってほしいと思います。

工藤　話は変わりますが、霜鳥学長は秋田の抱える問題である少子高齢化問題についてどのように考えていらっしゃいますか？

霜鳥　秋田は本当にいいところで、空気もいいし、美味しい食べものも沢山あり、高齢者が住みやすい土地です。秋田は高齢になっても暮らしやすく、離れたくない土地なのかもしれないですね。高齢者の生活や医療の場としても、秋田にはアドバンテージがあるのではないでしょうか。一方で秋田で学校運営を行っている身としては、秋田で学んだ学生が少しでも残ってほしいとも考えますが、現状は地元就職が少ないため、どうしても県外に就職する学生が多い。例えば福祉や医療に特化した学校をつくり、病院や療養施設を作れば、雇用や人口も増えるのではないかと思います。大学などの教育機関は管理費がかかりますが、県外から若者が来て、経済効果はとても大きいということも分かっているので、その様にできたらいいと思っています。

工藤　高齢者を増やせば、そのための雇用が生まれる。また家族の方が会いに来る機会が増えれば秋田での経済効果も生まれる。こういった発想は意外にシンプルですね。

ところで最近、アートとビジネスの関係性を考える機会があり、ぜひ今日はこの件も霜鳥学長とお話ししたいと思っていました。

霜鳥　美大はどうしても芸術作品やアートを作る場と思われがちですが、今やアートのフィールドは広範囲で、当然ですがビジネスの分野にも強いかかわりがあると言えます。アートとは何もないところ（ゼロ）から発想し形にしていくもの。それは様々なビジネスで活かせる力だと思っています。美大の学生が職業や起業を考えるとき、どうしてもデザインや制作系が多くなりがちですが、このゼロを形にする力を活かすことができれば、様々なビジネスシーンで能力を発揮できるのでないかと思います。

工藤　何もないところから新しいものを生み出すクリエイティビティは正にビジネスそのものですね。その力は起業家として或いはビジネスパーソンとして大きな武器になりますね。

霜鳥　身の周りにアートというのは本当に多くて、あらゆるものにデザイナーが関わっています。宅配便の段ボールから、街づくりまで様々です。アートの数だけ、それよりも多くのアイディアがそこには含まれています。この力は会社や事業に大いに役立つと思います。そんな起業家が秋田に多く生まれると現状も変わってくるかもしれません。

工藤　デザインやアートの考え方を理解することは、事業の構想やアイディアを広げる思考に繋がるのかもしれませんね。では、最後に秋田の起業家や起業を志す人たちにメッセージをお願いします。

霜鳥　秋田新幹線の話ではないですが、先頭に立って走るという気持ちで事業の構想を作ってほしいです。もちろん前向きに発進して、特に若い人が先頭を走るという意欲を持って、新しいことに取り組んでいってほしいです。応援しています。

霜鳥学長の趣味について教えていただきました。

霜鳥学長はオペラ、バレエの鑑賞やロードバイクでのサイクリングを趣味に持っているそうです。オペラ、バレエの鑑賞は年に一回は海外の劇場で鑑賞をするほど。特にドイツで見た、四夜にわたるオペラ（ワーグナーの「リング」）が特にお気に入り。オペラ劇場は建築物としての外見も一級品で天井や壁の絵や装飾も素晴らしく、オペラ鑑賞とその空間も楽しんでいる。

また、週に一回、約50km程度のサイクリングを健康管理も兼ねて楽しんでいて、新屋から雄和の往復コースは、秋田の四季を感じながらのサイクリングを楽しめ、とても清々しいとのことでした。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増(ございま)した。

インタビュー
合同会社ジェグルス（共同事業体ジェイワン） アントレプレナーコンシェルジュ　工藤　実

ライター　秋田大学2年 小林 恵大
企　画　共同事業体ジェイワン（秋田市ビジネススタートアップ支援事業）

※撮影のために一時的にマスクを外してます。